



—東地中海地域ニュース—

レバノン:レバノンのソブリン格付けの引き上げ (7月3日付デイリー・スター紙)

3日付、現地デイリー・スター紙は、レバノンのソブリン格付け引き上げについての記事を掲載している。概要は以下の通り。

1. キャピタル・インテリジェンス社（キプロスに本社を置き、新興成長市場のみをカバーしている格付会社）は、レバノンの長期外貨・自国通貨（レバノン・ポンド）建てソブリン格付けを、「B-」から「B」に引き上げた。見通しは「安定的（stable）」とされている。この結果、レバノンの主要6銀行（アウディ銀行、BBAC、ブロム銀行、ビブロス銀行、クレディ・リバネ、フランサバンク）の長期外貨建て格付けも「B」に引き上げられ、見通しは「安定的」とされた。
2. 今回のソブリン格付けの引き上げは、第一にレバノンの国際流動性ポジションが改善された事、第二に投資家の信頼と銀行セクターの流動性が改善している事を踏まえ、短期的金融リスクが低下したと考えられたためである。政治リスクの減少と有益な金利差は、資金の流入を回復させ、レバノン・ポンド建て預金の需要増を招き、結果としてレバノン中央銀行の外貨準備高は2007年末から2009年4月の間に倍増し190億米ドル（GDPの60%）となった。
3. 他方、レバノンのソブリン格付けは、国家財政の脆弱性と政治的リスク要因により、低く抑えられている。レバノン政府はキャピタル・インテリジェンス社が格付けを行っているうちで最も大きな負債を抱えており、その総額はGDPの162%、2008年末の歳入予算の672%にも及んでいる。債務ストックの構成は不利なもので、借り換え、金利、為替レートの大きなリスクに晒されている。累積債務の削減や潜在的な経済成長率を向上させるために必要とされる改革の進展は遅い。